

庭で見つけた日本のカタチ

奈良女子大学附属中等教育学校3年A組

間崎 まさき

芽夢 めむ

私の母は家庭菜園をやっている。キュウリ
トマト、いちご。食べ物だけではなく、花も
沢山。毎週のように近くのホームセンターへ
行つては苗を買つてきて、気付けば二、三時
間ずつと土を触つてゐる。真つ暗になつても
庭から歸つて来なかつたり、汗だくになりな
がらもずつと楽しそうにやつていたりした。
「何がそんなに面白いのだらう。」

そう思っていたある日、大きくてみずみずしいキュウリができた。そのキュウリを一口食

べて、驚いた。いや、驚きを超えていた。私
が食べてきたキュウリ至上、ぶっち切りで美
味しかった。そんな出来事をぼんやり考えて
いたら、突然思いついた。

「これって税と似てるかも。」

習慣的に水をやって土をいじっていたら、
いつの間にか大きくて立派なキュウリができ
た。そのキュウリは私を笑顔にさせた。消費
税、固定資産税、所得税。習慣的に払ってい
たこれらの税は、めぐりめぐって私たちの生

活をより豊かにしている。

例えば、二〇番通報すればすぐに救急車が来ること。図書館では無料で本が借りられること。震災などで被災してしまっても支援してもらえること。これらは私たちの身近にあるが、全くもって当たり前のことではない。税は社会の質をより良くしている。

一方で、こんなこともあった。庭で育てていたミニトマトが小鳥に食べられてしまったのだ。これも実は税と似ていると思う。ニュ

「スなどによく見る、脱税や税金の横領だ。」

他の鳥たちはなんとか自分で虫をつかまえて

食べているのに、ミニトマトを盗んでいく小

鳥がいる。目先の利益のために、本来納める

べき納税額をごまかしたり、集めた税金を自分のものにしてしまったりする人がいる。そんなことばかりが続けばいずれ社会は成り立たなくなってしまうだろう。意外にも私の庭には税に見立てられるものがゴロゴロ転がっているのかもしれない。

二〇一九年、消費税が8パーセントから10パーセントに引き上げられた。その時私は、とても損したような気持ちになっていた。平均のものは今まで百八円で買っていたのに、これから百十円になってしまふ。たったの二円。けれども、「ちりも積もれば山となる」2パーセントがとても大きく感じられた。しかしそれは国からしても同じことが言える。

一人二円でも日本国民全員から集めれば約二億円。私のたった二円で今より少し便利な世

の 中 に な る と 考 え た ら 、 消 費 税 増 税 に 対 し て
の 損 し た 感 覚 も 無 く な っ て い た 。 そ れ に 気 付
い た 時 の 私 は 笑 顔 だ っ た 。

私の家の庭が緑でいっぱいなのに、税で笑顔になれる人がいっぱいいる、そのような正しく税が国民に還元される社会になればいいなと思う。